

B-GROOW NewsLetter

Message From SORA

B-GROOW (ビーグロウ) の空でございます。

梅のつばみもふくらみ、暦の上でも春を迎えました。

ここ福岡で梅といえば太宰府天満宮が思い浮かびます。学問の神様としても有名ですの
で、受験前に参詣した、という方も多くいらっしゃると思います。学問に限らず、学びは一
生続くものです。現状に甘んじることなく、常に志を高く持ち続けたいものです。

さて、太宰府天満宮では、『25日』は天神様と大変深いご縁のある日とされています。
毎月25日に月次祭が営まれ、参道ではこの日限定のよもぎの梅ヶ枝餅が店頭に並ぶそう
です。機会があれば25日に訪れてみてはいかがでしょうか。

「リスクリング」を考える

前回のニュースレターでは、リスクリングの定義や注目される
背景についてお届けしました。今回は、中小企業がどのようにリ
スクリングを進めていけばよいかについて考察します。

■ 中小企業こそ「リスクリング」が重要

DX化が進む中、中小企業は大企業以上に戦略的にリス
キングに取り組むことが重要です。中小企業は大企業ほど資源
に恵まれていないことが多く、新しい技術や変化に対応するに
は、従業員が幅広いスキルを身につける必要があるためです。

■ 「リスクリング」の手順とは

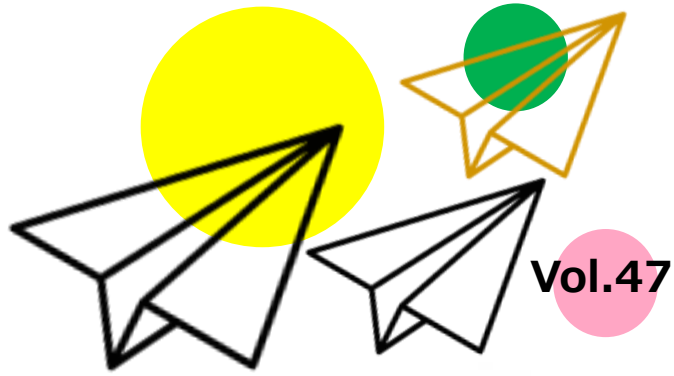
リスクリングは以下のような流れで進めます。

1 : 浸透

第一のステップは、変革の必要性を浸透させることです。長
年勤めているベテラン社員ほど、慣れている「今のやり方」が心
地よいので、変化することに対して抵抗感があるかもしれません。
まずは、新しい技術・変化に対応することの必要性を社内で浸
透させ、変化への抵抗や不安を払拭することが肝心です。

2 : 社員のスキルマッピング

次に、組織全体のスキルレベルや、今後必要なスキルを正確
に評価します。リスクリングの具体的な内容を決めるためには、
社員の現在のスキルと将来必要なスキルを明確にし、その間の
ギャップを特定することが重要です。



Vol.47



空直美

3 : 優先順位付けとプログラムの実施

ギャップを特定したら、そのギャップを埋めるためのプログラムを、
優先順位の高いものから提供します。外部の機関やオンライン
教育等、活用できるツールを検討します。

4 : 実践の場の提供

社員が学んだスキルを実践的に経験できる場を提供します。
プロジェクト参加などが効果的です。

5 : 振り返りと修正

提供したプログラムについて、社員からの意見を積極的に収
集し、プログラムの修正を行うことが重要です。

■ 必要なスキルが何かを特定するために

必要なスキルが何かを特定するためには、情報収集が不
可欠です。業界動向の分析をすることや競合他社の調査、
技術トレンドの検討などが必要です。また、会社の戦略と現
在の目標を再確認し、目標の達成に必要なスキルを洗い
出すことも重要です。

■ おわりに

いかがでしたでしょうか。リスクリングを進めるにあたり重要な
のは、会社の戦略とリスクリングのプログラムが連動しているこ
とです。また、リスクリング成功のための鍵は、社員一人ひとり
がリスクリングを自分事としてとらえ、主体的に学ぶ組織風土
を作ることです。リスクリングの必要性について確認し、自社で
これから必要なスキルは何なのかを考えるとところから始めてみ
てはいかがでしょうか。
(アソシエイトコンサルタント 平田千佳)



スタートアップについて考える

最近、ベンチャーとならびよく耳にするようになった言葉に「スタートアップ」があります。今回より2号にわたり、「スタートアップ」について取り上げます。

■ スタートアップとは

「スタートアップ」という言葉から「起業したばかりの新しい会社」というイメージが浮かびますが、もともとはアメリカのシリコンバレーでGoogleやAmazonなどの企業を指す言葉として使われ始めた言葉です。以後、革新的なビジネスモデルによって社会に変革をもたらし、短期間で急成長する企業のことを指す言葉として定着していきました。

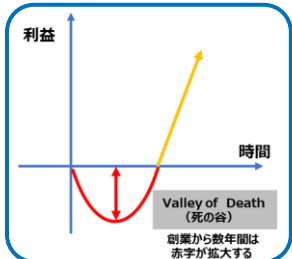
■ スタートアップの特徴

「スタートアップ」には以下のような特徴があります。

■ イノベーションの創出

「スタートアップ」は新しい商品・サービス・事業を展開するだけでなく、新しい技術や考え方を導入することで社会変革を目指します。また社会貢献を強く意識しています。

■ 短期間で急成長する



【スタートアップの成長曲線】

「スタートアップ」の成長曲線は「Jカーブ」と呼ばれる曲線を描きます。立ち上げ当初、新たなビジネスモデルをつくり上げるための課題と解決策の仮説検証や商品・サービスの開発のため資金を消耗します。赤字の状態を「Valley of Death(死の谷)」

と呼び、この状態を乗り越え、急成長し存続できた「スタートアップ」が成功を掴みます。「スピード感」が成功へのキーワードです。

■ 短期的な経営戦略

「スタートアップ」は短期間でのEXIT（スタートアップ出資者が株式を売却して利益を得、投資資金を回収すること）の達成をゴールとしています。一般的に、株式や事業を売却するM&Aや証券取引所に株式を上場するIPOによりEXITを図ります。

■ おわりに

日本での「スタートアップ」の成功例はまだ少なく、政府による重点的な支援強化策が進められています。次号では「スタートアップ」が今日本で注目される背景について考察します。

(コンサルティングアシスタント 香月裕美)

株式会社 B-GROOW

〒813-0017

福岡県福岡市東区香椎照葉3-3-1-2825

TEL 092-405-2769 FAX 092-405-3579

Business manner

One point Lesson

【特別編】



ビジネスマナーについてシリーズでお送りしていますが、今回は【特別編】です。

ビジネスマナーは、新社会人になるタイミングで学ぶことが一般的ですが、社会人歴が長くてもまだまだ自信がないという方や、これまで学ぶ機会がなかったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？「社会人の必須スキル」と言われますが、そもそも、ビジネスマナーはなぜ必要なのでしょう？

なぜビジネスマナーが必要なのか？

① 円滑なコミュニケーションのため

ビジネスマナーの本質は「他者への思いやりの心」です。仕事に関わる人たちに対して、思いやりの心を持って接することで、相手との円滑なコミュニケーションが可能となります。

② 信頼関係を構築するため

ビジネス社会では、年齢や価値観など、様々な立場の方と接する機会が多くあります。共通のマナー基準を身に付けておくことで、どのような立場の方に対しても、信頼感や安心感を与えることができます。

③ 企業イメージの向上のため

ビジネスマナーを修得しているかどうかは、個人だけでなく、会社全体のイメージを大きく左右します。会社の代表として、正しいビジネスマナーを身に付けておく必要があるのです。

これからのビジネスマナー

近年では、働き方の多様化に伴って、ビジネスマナーのあり方も変化してきています。Web会議のように、以前はなかったコミュニケーション方法が求められる場面も出てきました。

ビジネスマナーの基本的な考え方に変わりはありませんが、時代の流れに合わせて、その都度アップデートしていく必要があるでしょう。円滑な社会生活を送るためにも、常にアンテナを張って、知識の充足に努めてまいりましょう。

(文責：コンサルティング事業部 久保 京子)

■ B-GROOWビジネスカレッジ新入社員研修

1日目：2024年4月2日(火) 10:00～17:00

【意識改革・経営知識取得編】

2日目：2024年4月3日(水) 10:00～17:00

【ビジネスマナー編】

詳しくはこちら [B-GROOWビジネスカレッジ新入社員研修ご案内.pdf](#)

編集後記

日頃よく目にするメルカリやラクスルなどの企業は、スタートアップだそうです。身近な企業がスタートアップだったことに驚きました。

(編集担当 香月裕美)

Mail sora@b-grow.com

HP <https://www.b-grow.com>